

# 蘇州の生活と民俗

馬 漢 民

MA Hanmin

(中国俗文学学会常務理事)

翻訳 彭 偉 文

(COE研究員RA)

尊敬する鈴木教授、尊敬する福田教授、研究者、専門家のみなさま、私は「姑蘇繁華図」の故郷——蘇州から参りました。今回の研究会で、私は「蘇州の生活と民俗」について報告したいと思います。「姑蘇繁華図」の作成から300年がたちました。蘇州の人々は現在、どのように生活しているのかについて、ここで五つの部分に分けて紹介しようと思います。

それぞれのテーマは、1、蘇州という町について；2、民俗は蘇州文化の魂である；3、蘇州民俗の外在的表現について；4、蘇州民俗の現状について；5、終わりに、現在の蘇州民俗の研究について、です。

## 1. 蘇州という町について

蘇州は古くから「呉」といって、「姑蘇」とも呼ばれます。清の乾隆年間の宮廷絵画である「姑蘇繁華図」に、300年前の蘇州の繁栄ぶりがよく描かれています。絵に見えるこの蘇州の古城ができたのは、紀元前300年ごろのことでした。すなわち、蘇州は2500年くらいの歴史を有しております。宋代の蘇州は、すでに沿海地域の経済・文化の中心となっていました。明に至り、蘇州は中国で資本主義の萌芽が最初にできた地域の一つになりました。主に紡織と生糸、茶葉、織物などの生産と手工業がかつてない盛況に達しました。蘇州の人口は、唐の時代にすでに10万戸になり、中国では「雄州」と呼ばれていました。このような歴史のある町として、豊富で多彩な民俗文化を生み出してきました。今でも、蘇州の園林、蘇州の昆曲、蘇州の評弾、蘇州の古琴、蘇州の廟会などなど、たくさんの文化事象が見えます。現在までに、7つの項目がすでにユネスコの非物質文化遺産の保護対象に登録されています。

## 2. 民俗は蘇州文化の魂である

二つ目は、民俗は蘇州文化の魂であるということについてです。蘇州では、男の人は穏やかで上品でありまして、女の人は美しくて優しいです。ここでもう一つ申し上げたいのは、蘇州は美人がよく出るところだといわれていることです。何故ならば、それは民俗文化があるからです、民俗文化の影響がなければこんなことはありません。蘇州の民俗文化は人々の生活に深くかかわっております。ここで、蘇州の民俗文化をいくつかの類型に分類してみましょう。というのは、民俗を分類すれば、簡単に言えば、農業及び養殖業に関する民俗、婚姻・生育・誕生日の祝いなどに関する民俗、葬儀に関する民俗、建築・移居・入居に関する民俗、年中行事に関する民俗、

社交に関する民俗、食品と食生活に関する民俗、服飾に関する民俗、土地・橋・川などに関する民俗などなどがあります。つまり、人々の生活のあらゆる面にかかわっております。あらゆる業界には、その業界の民俗があります。中国には、「郷に入りては郷に従え（入郷随俗）」ということわざがあります。すなわち、それぞれのところにはそれぞれ風俗があります。蘇州では、普段の生活に、どこでもその独自の習慣があります、風俗があります。これは国家によって規定されたものではなくて、民間の人々によって、自覚的に行われているわけです。民俗は、ある種の雰囲気のようなものを作り出します、規範のようなものになります。規範が形成して、国家による強制的なものではないけれども、人々は自覚的にそれに従って行動しているわけです。人々の道徳修養のレベルもそれによって高められます。中国では、かつて支配者がしばしば民俗文化を鎮圧し撲滅しようとしたことがありましたが、すべて失敗してしまいました。民俗は、民意そのものです。それゆえ、民俗は永く存在すると思われれます。

### 3. 蘇州民俗の外在的表現について

これから三番目の問題に移ろうと思います。これは蘇州民俗の外在的表現に関する問題です。民俗には、有形的民俗があります。すなわち、目で見える民俗です。たとえば、廟会、春戯、走月亮、嫁送りと嫁迎え、梁上げ、葬儀、墓参りなどの民俗行事は目に見えるものです。視覚によってわかるものです。ここで具体的な例を挙げましょう。たとえば子供を生まます、男の子ですね、大変にめでたいことであります。この喜びをみんなに分けるために、その家はたくさんの卵を赤く染めて、近所の家に配ります。それから、一ヵ月後、つまり子供が生まれてから一ヵ月後ですが、その髪の毛を剃ります、散髪するのです。この行事は非常に壮観で、周りの人々がすべて集まってきます。この時に、その子に名前を付けます。実は、これには大々的に披露するという意味があります。子供が生まれると出生証明が発行される現在と違って、昔は出生証明がなかったので、社会に認めてもらうために、このような民俗的な方法で自分の家に子供が生まれたことを披露する必要があったのです。このような行事は、直観的で、目で見えるものです。このような個人的な行事もありますが、そのほかには、具体的に言えば、大規模な廟会があります。この廟会には、五万人とか十万人が参加いたします。蘇州では、今でも月崇拝の風俗があります。毎年8月18日、旧暦ですね、男女問わず、大勢の人々が湖畔に、石湖の湖畔に月見をしに行きます。この行事の目的は、見てわかるように、神様を祭り、神様を喜ばせるのです。昔は確かに神様を祭祀し喜ばせるのでしたけれども、現在に至って、群衆的な月見の意味しかなないようにになりました。

ここで蘇州ならではの、比較的に特殊な民俗事象をいくつか紹介しましょう。蘇州の民間では、ある神様が祭られています。「財神」といいます。この財神は、非常に大きい霊力を持っていると考えられております。「東西南北中」の五つの方角すべてに財神がいます。毎年旧暦正月5日に、商人たちは朝いち早く起きて、道路に沿って、振り返らないように長い距離を歩きます。この「路頭神」に会えるかどうか分かりませんが、気持ち的には落ち着き、財神さまを迎えた気分になることができたと思うのです。ここで申し上げたいのは、比較的虚妄な行為であります。すなわち、これは意識上の問題にすぎず、目に見える行動ではないのです。実は、彼自身にもその信じている神様による恵みがまったく見えないものです。

もう一つここで申し上げたいのは、行動で表す心意現象です。これはほかのところでは見られない民俗です。蘇州の虎丘は、観光名所です。その丘の後ろに、ある小さいお寺がありました。その小寺は、「頼債廟」といいます。非常に不思議なことですが、いつからかわかりませんが、毎年春節を迎える時、つまり毎年の大晦日に、年に一度、あらゆる商家、あらゆる業界は、その年の決算を行い、債務を清算します。しかし、債務者は、借金をして、返済できなければ、自主的にその「頼債廟」に入ればいいのです。借金の取立てをする人は、誰もその寺に入ることができません。そうすると、その借金の返済を回避しようとする人は保護されるようになって、誰もその人を追いつめることができません。この事例から見ると、民俗は法律のような役割を果たしていると言えましょう。

蘇州の民俗は非常に豊富です。たとえば、嫁に行く時、ある家の娘が嫁に行けば、必ず「哭嫁の歌」を歌います。彼女たちは、その場ですべての涙を流しきるようにします。そうすれば、夫の家に嫁いでから、もう涙を流すことがないのです。これは彼女たちの幸せな生活への一種の願いでしょう。また、彼女たちは母親への愛でもあります。これは母親との最後の惜別なのです。私にはこれに深く感動させられたことがあります。私には現に哭嫁の女の人の見たことがたくさんあるのです、非常に感情深い泣き声です。ほかに、「哭葬の歌」もあります。これは亡くなった人への尊敬の気持ちを表すためです。「死んだ」とか、「死んだ人」とか、蘇州では「死」という言葉を口に出してはいけません、「去った」といいます。現在、今でも、蘇州に行ったら、「誰々がいますか」とたずねてはいけません。「いない」といえば「死んだ」という意味なのです。哭葬の話題に戻ります。上手に泣けない女性も時々いますね。親族が亡くなって、葬儀で上手に泣けなければ、困ることです。そのため、人様の葬儀に出て大きい声で鳴いて悲しい雰囲気を出して生計を立てる女性がいたのです。その泣き声は本当に悲しく聞こえます。声も大きく涙もたくさん流し、非常に悲しく感じさせます。

#### 4. 蘇州民俗の現状について

四番目の問題に入ります。民俗の現在の状況です。たくさんの、たとえば、娼家や賭博場などなど、それに関する民俗は、いまはもうほとんどなくなりました。蘇州にはいたるところに茶室があります。お茶を飲む時の急須の置き方にも民俗があります。急須ですね、注ぎ口があります、その注ぎ口を同席の人に向けるのはいけません。誰かに向けると、その人に食事代を払ってもらおうという意味なのです。

蘇州では、いろいろなことが変わってきました。昔は、なかなか妊娠しない、すなわち子供ができない人がいると、おせっかいな人は、「送秋」を行います。「送秋」とは、子沢山な人の家に行き、窃盗の形で、ものを盗むのです。お玉の柄、あるいは牛をつなぐのに使う棒などを盗んでいくのです。これを妊娠できない女の人のベッドに置きます。実は、これは原始的な性器崇拝の一種と思われます。現在はもうほとんど見られていなくなりました。

現在は、いろんな民俗、新しい民俗が現れてきました。たとえば、家を建てると、従うべき民俗がたくさんあります。壁の積み上げにも、棟上げにも、完成するまでには、絶え間なく民俗行為が見られます。

近年にも、ある新しい民俗ができました。今は生活がよくなってきて、母方の伯父さんの負担も重くなってき

ました。一家が新居に入居すると、全部の電気製品など、嫁入り道具を用意するように、あらゆる物を買ってあげなければならないのです。大学への進学は、いまの中国でごく普通のことになりました。これらもやはり母方の伯父さんが負担してくれます。洋服やスーツケース、すべて買ってあげないといけません。この現象のできた理由は、私たちにもよくわかりません。多くの民俗事象と同じように、誰かによって決められたことではないけれども、社会的風習になって、母方の伯父さんなら、こうしないといけません。こうしなければ、伯父さん失格だと思われてしまいます。

## 5. 終わりに

もう時間ですので、これ以上蘇州民俗を紹介することができません。福田教授は、長期にわたって蘇州を訪ね、蘇州民俗研究に大きい役割を果たしてくださいました。ここで深く感謝を申し上げます。われわれはいま蘇州民俗を研究しておりますが、その始まりは遅かったのです。日本は、われわれより60年も早く民俗学研究を始めており、われわれは日本の学者、専門家の方々に、たくさん教わらなければなりません。ここにいらっしゃる研究者、専門家の方々は、時間があればぜひ蘇州を訪れてください。皆様のご光臨をお待ちしております。ありがとうございました。

### 参考図



図1 現在の閶門（2004年10月撮影）

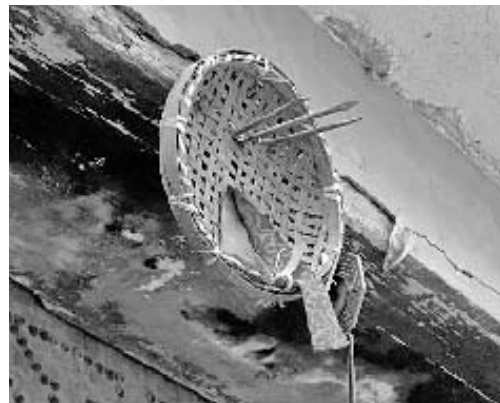


図2 民家入口に掲げられた呪物

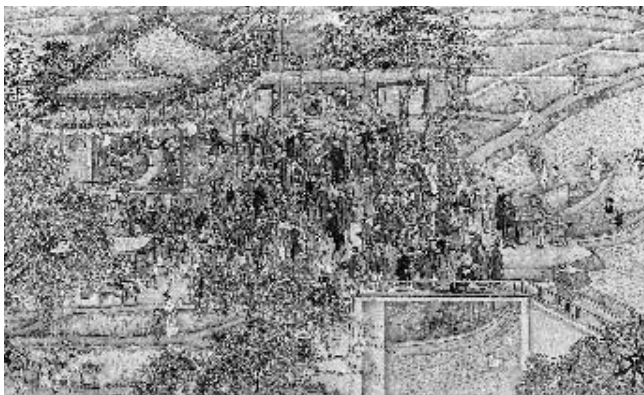


図3 春戲（「姑蘇繁華図」より）



図4 石湖の走月亮（『点石齋画報』より）